

生物多様性を考える視点

生物多様性を考える時、遺伝子の多様性、種の多様性、生態系の多様性という3つの視点でとらえます。

遺伝子の多様性

様々な環境に適応するため、同じ種でも多様な遺伝子を持っています。そのため、種の集団が小さくなると遺伝子の多様性が維持できなくなり、環境の変化についていけず、絶滅する事もあります。ある種が個体数の減少により、暖かい地域にのみ生息することになってしまったとすると、暖かい気候にのみ適応した種が残る可能性が高くなり、急に寒波が来たときに絶滅してしまう危険性があります。

遺伝子の多様性により、環境の変化にも耐えることができます。

生物多様性

種の多様性

地球上には何千万種もの生物がいると言われていています。このように、様々な種類の生物がいることを、種の多様性があるといいます。例えば、草原に棲むライオンやシマウマなどの生きものもいれば、森林やツンドラに生きるトナカイなどの生物もいるということです。

しかし、これらの多くの生きものの実態はまだ未知な部分も多く、人に知られずに滅びていく現実もあります。

知っていますか？ ホットスポット

生物多様性が豊かでありながら原生の7割が失われ、危機に直面している地域です。世界に36箇所あり、その中に日本も入っているのです。

生態系の多様性

生物は、それぞれの環境の下に生活しています。この環境と生物集団のまとまりを生態系といいます。そして、環境が変わればそこにすむ生物も変わります。また、生態系の多様性は、地形や気候の違いによって生じますが、まず、その地域にどのような植物が生育（植生）するかによって、どんな生態系ができるかが決まります。